



フランス

環境負荷の少ないモミの木とは

“QUE CHOISIR” <https://www.quechoisir.org/actualite-sapin-naturel-ou-sapin-artificiel-lequel-a-le-plus-faible-impact-carbone-n132898/>
 「6000万人の消費者」 <https://www.60millions-mag.com/2019/11/29/sapin-naturel-ou-artificiel-lequel-est-le-plus-ecolo-16992>
 フランス環境・エネルギー管理庁(ADEME) <https://librairie.ademe.fr/ged/9204/guide-organiser-noel-plus-ecolo.pdf>

クリスマスが近づくと家庭でモミの木を飾るのがフランスの伝統である。2023年に販売されたツリー590万本のうち、プラスチック製などの人工ツリーが約66万本、残りの約9割が天然木だったという。天然木の多くは根を切り落とした状態で販売されるため、ワンシーズン限りの消耗品として取り扱われる*。一方、プラスチック製のツリーは繰り返し使えることから、天然木より環境負荷が少ないという考えもある。そこで、“QUE CHOISIR”(旧UFC:フランス消費者同盟)と『6000万人の消費者』(国立消費研究所)が、この問題に切り込んだ。

両機関は、プラスチック製ツリーの長所を認めつつも、二酸化炭素排出量の少なさ、リサイクル可能性等の観点から、天然木に軍配を上げる。特に、移動距

離の少ない地元産が望ましいとするが、モミの木に原産地表示義務はないことから、確認の困難さを指摘する。また、天然木であっても、雪を模して白く着色された商品はリサイクル不可能なため避けるべきだとする。一方、人工ツリー的一种だが、間伐材等で組み立てる木製ツリーはお勧めだという。

ただし、ツリーによる環境負荷は、年末行事全体からみると、ごく一部であることに注意を要する。環境にやさしいクリスマスの過ごし方を提案している2024年12月公表のADEMEの冊子では、温室効果ガスの発生割合は「贈り物」57%、「移動」25%、「食品」15%と続き、ツリーを含む「装飾」は2%に過ぎない。優先すべき課題は、贈り物の見直しや、自動車等で長距離移動する生活習慣の見直しだと力説する。

* ウェブ版「国民生活」2022年3月号「海外ニュース」参照 https://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-202203_07.pdf

ドイツ

消費者センターが手話による支援を強化

バーデン=ビュルテンベルク消費者センター <https://www.verbraucherzentrale-bawue.de/erklaerung-barrierefreiheit>

消費生活に関するさまざまな情報を発信する消費者センター。移民向けに多言語の資料を作成したり、地域によっては外国語が使える相談窓口を設けて、正確な情報提供に努めている。また、重要な情報には「やさしいドイツ語」を利用することで、外国人のみならず、自国の障がい者等の理解も助けている。「やさしいドイツ語」とは、難解な表現を避け、短い文章、大きな字体、イラスト・写真等を活用した分かりやすい書き言葉を意味する*。

最近、バーデン=ビュルテンベルク消費者センターが力を入れているのは、聴覚障がい者への情報発信である。同センターのウェブサイトでは、消費生活の場面ごとに動画が準備されている。例えば、訪問販売契約のクーリング・オフ方法、携帯電話サービス

の選び方、オンラインショッピングでの被害防止法、デジタル決済の注意点などである。動画はアニメーションと音声による解説、手話通訳から成る。

同センターの相談方法には、電話、来所、ビデオ等があり、国内のほかの消費者センターと同様、いずれの場合も原則として有料である。聴覚障がい者も例外ではないが、希望すればビデオ相談の際の手話通訳者を無料で手配してもらえるなど、支援が強化された。また、相談予約自体が難しい相談者は、手話通訳者の助けを借りて予約できる。

なお、同センターは州の障がい者平等法に基づき、ウェブサイトのバリアフリー化を進めている。アクセスに不満のある消費者は、州の監視機関に相談できると紹介する。

* ウェブ版「国民生活」2022年8月号「海外ニュース」参照 https://www.kokusen.go.jp/wko/pdf/wko-202208_08.pdf